

こやちまさし  
在京雫石町友会 会員 小谷地正司さん



## 「雫石魂」で耐えた五十年…故郷に感謝

私が中学卒業と同時に集団就職で上京したのが14歳の春でした。何も知らずにふるさとを離れた私が、50年後の現在に至ったのは、苦しさには負けないで頑張れた、雫石育ちの精神力だったと、育ててくれた親兄弟は勿論、雫石の大自然に感謝したい。

小学校時代、私たちは戦争の影響で男9名女9名の小人数の学年だったので、6年間小さな教室で過ごしたが、最後は新校舎が完成して、明るい教室から卒業できてとても嬉しかった記憶がある。子どもの頃はとにかくわんぱくで、厳格な父親に厳しく叱られた思い出がある。集団就職で上京したあとは、母親が心配で涙をながしていたと後に聞かされ、両親の思いに感謝の念でいっぱいです。葛根田川での川遊びもしたが、小岩井農場での畑の草取りのアルバイトが最も印象深い。広い農地を午前中かけて進み、そこでお昼を食べて帰ってくるという作業だった。就職してからはいろいろな仕事の経験をしたが、明電舎では大型変圧器の巻線を担当、手作業での線の接続が緻密で手がまめだらけとなり、20歳前の若者にとってきつい作業であった。20歳になり陸上自衛隊に入隊。機甲科で戦車や銃付のジープを乗り回した。当時の戦車はアメリカ製のガソリン車でノークラッチであっ

た。現代とちがいで国道も走っていたが、滑走路でのパレードのときがやはり晴れがましい時でした。日通警備時代は銀行の現金輸送を担当したが、襲撃事件もあった時代で、毎日が緊張の連続であった。無事に定年を迎えてほっとしている。

26歳の春に友人の紹介で、八戸出身看護師の喜美子と結婚、長女・次女に恵まれた。結婚式は盛岡の桜山神社で行ったが桜が満開で特別に綺麗だった。海外旅行もいろいろ経験したが、次女がハワイで結婚式を挙げたときの家族でのハワイ旅行が印象深い。ドライブが趣味で車で帰省することが多いが、七ツ森を過ぎて岩手山が見えるとなぜかほっとしておだやかな気持ちになれるし、田舎に帰ったと実感する。帰省した際に本家の農作業を手伝い、きゅうりなどを選別している時間がとても気持ちの良い時間でもある。また、帰省時は同級生の上野真氏宅（上野旅館）に集まり、仲間と酒を飲むのが楽しみです。



ハワイ旅行(妻と)



ハワイでの家族写真(右端が筆者)

小谷地正司さんプロフィール

昭和20年12月9日生まれ68歳。(千葉県四街道市)

谷地行政区：屋号「川原子(からっこ)分家」兄妹：姉・兄・弟・弟の5人兄弟。趣味：ドライブ。

経歴 下長山小学校—雫石中学校—安藤工業—明電舎(沼津工場)—陸上自衛隊機甲科(東千歳)—日本通運—日通東京警備